

新・奥の細道

山形西ルート

①

最上川と詩歌のみち



山形県

GUIDE

みどころ案内

大石田は、最上川の表情豊かな起伏に富んだ、河岸段丘の連なりとなだらかな山なみが風雅を求める旅人の心をありのままに映しつけてきました。まちのあちこちに数々の時の遺産や、詩情くすぐる情豊かな自然歩道です。

最上川舟着場

Mogamigawa-hunatukiba

江戸前期に最上川舟運は清水(大蔵村)から大石田に舟継権が写り、大石田舟は酒田まで下り荷を、酒田舟は大石田まで上り荷を運ぶこととなり、寛政4年(1792)幕府の川舟役所がおかれ、物資の集散地として鉄道が開通されるまで大変な賑わいをみせました。舟着場には、明治中期に活躍した「小鷲飼舟」が係留されています。また、下流側のすぐ近くには、川舟役所跡の史跡碑と俳聖「松尾芭蕉」翁真蹟歌仙「さみだれを…」碑が建立されており、往時の風流を慕うことができます。◆お問い合わせ/最上川舟下り(株) ☎0237-35-5295



最上川舟着場

白壁塀蔵展望台

Sirakabeheigura-tenbodai

太古の昔よりとどこおることなく流れつづけてきた最上川、大石田の歴史は最上の川底に沈潜していると言っても過言ではありません。大石田河岸の隆盛の面影を今に再現した「塀蔵」は、最上川舟運の栄華の歴史を物語るものです。大石田を訪れた「芭蕉」、近代文学に新風をもたらした「正岡子規」の数々の史跡と出逢えることができます。



白壁塀蔵展望台

黒瀧山「向川寺」

Kurotakiyama-kosenji

大徹禪師開山の600年の法灯を伝える曹洞宗の名刹で、開山以来、本山総持寺の直末寺として重要な役割を果たし、歴代禪師が開創した末寺は山形県下はもとより、秋田・宮城県に28ヶ寺をかぞえており、向川寺系の基礎となりました。現在は無住となっています。この向川寺には芭蕉をはじめ、どれほど多くの偉大な文人たちが、この参道を踏みしめたことでしょうか。大樹の風鳴りの中で幽寂の境地に浸って欲しいところです。



向川寺

※法灯…私の教え

最上川ふれあいセンター

Mogamigawa-hureai-center

町営貸しアトリエとして、最上川河畔の切り立った小高い山の中腹にあります。施設からは眼下に大きく展開する最上川と四季折々のすぐれた景観が眺望でき、好シーズンともなれば、最上川をモチーフに幾つものキャン

パスが並びしなやかな感性をよびますことができます。また、近くには最上三十三観音の第二十六番札所「川前観音」があり、それらの眺望は町の登録文化財となっています。

◆お問い合わせ/大石田町生涯教育センター ☎0237-35-2094



最上川ふれあいセンター

あったまりランド深堀・虹の館

Attamariland-hukabori-nijiyakata

平成3年に湧出した温泉で、サウナ・ジャグジー・露天風呂があり、神経痛や筋肉痛・冷え症に効能があり、日帰り入浴は勿論、宿泊もできます。また、そばの里大石田ならではの「そば打ち体験(要予約)」もできます。

◆営業時間/8時~21時◆入浴料/大人350円・小学生150円

◆定休日/第4火曜日

◆お問い合わせ/大石田町地域振興公 ☎0237-35-5055



歴史民俗資料館

Rekisi-minzoku-siryokan

「舟運文化と文人墨客のさと」大石田を旅するとき、歴史民俗資料館はその出発点としてふさわしいところです。この資料館は松尾芭蕉、斎藤茂吉、金山平三、小松均をはじめとして、町ゆかりの文・画人の作品や最上川舟運資料が展示されています。また、同敷地内にある「聴禽書屋」は、斎藤茂吉が昭和21年1月からおよそ2年間1人住まいをしたところで、自ら名付けたこの離れで大石田の四季の風韻を余すところなくとらえた名歌集「白き山」を成したところです。



聴禽書屋

◆お問い合わせ/歴史民俗資料館 ☎0237-35-3440

クロスカルチャープラザ「桂桜会館」

kurosukarutyapuraza-keiyoukaikan

最上川とともに歴史を刻んできた当町にふさわしい「小鷲飼舟」を形どった施設は、大工・左官・船大工の道具の展示をはじめ、明和9年(1772)の「上棟の大事(上棟式の作法等の秘伝書)」や京都の東本願寺の「木割り図(設計図)」、左官職人による「鏡絵(土蔵の戸袋への漆喰による彫塑)」の関係資料が常設展示されています。また、喫茶コーナー・会議室・宿泊施設としても利用できます。

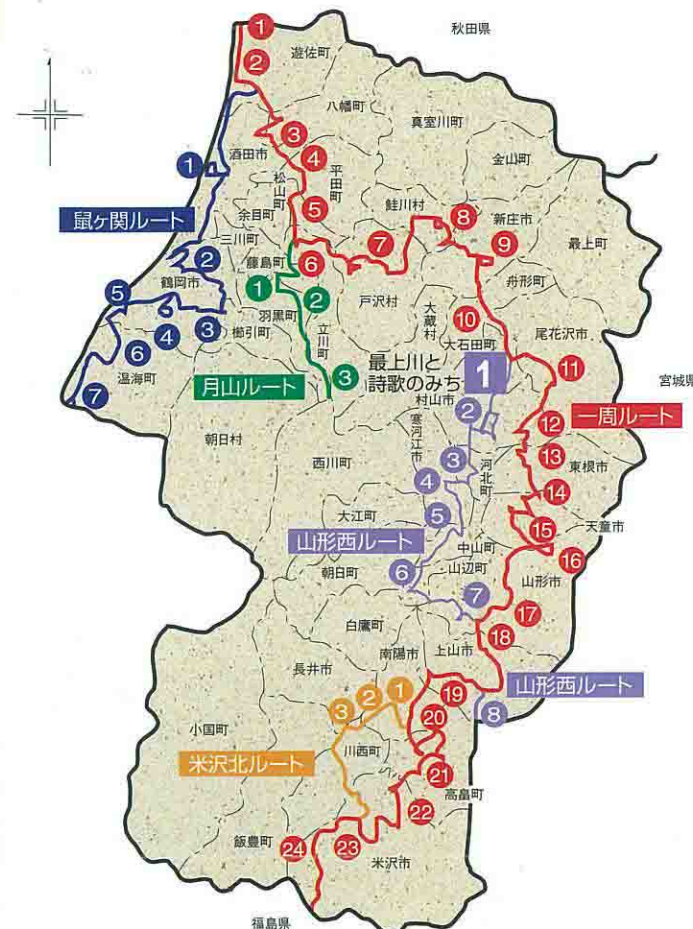
◆お問い合わせ/クロスカルチャープラザ「桂桜会館」 ☎0237-35-2220



桂桜会館

YAMAGATA MAP

東北自然歩道(新・奥の細道)ルート図



“新・奥の細道”とは

自分の足でゆっくり歩きながら、森や川、野鳥や虫など豊かな自然にふれあい、また、その地域の特徴ある文化や歴史と親しむためのみちです。“新・奥の細道”は正式には東北自然歩道といえます。この自然歩道は、一日で歩ける程度の遊歩道を1つのコースとして、コースの間をバスなどでつなぎながら東北を一周する長距離自然歩道です。そして、この道は福島県白河を起点とし、宮城、岩手、青森、秋田、山形の順で経由して福島県郡山に至るルートになっています。

また、この“新・奥の細道”は東北を一周するルートの他に、景観の優れた地域や名勝地等に向かうルートがあります。県内でも、月山ルート・鼠ヶ関ルートなど4つのルートがあり、山形県内のルートをあわせた総延長は45コースで469Kmとなっています。

この“新・奥の細道”を楽しむために

1. コースのみどころ、地形、距離をあらかじめ調べて、余裕のある日程を組みましょう。
 2. 歩きやすい服装で、荷物は最小限にとどめましょう。
 3. 天気予報に注意して、天気のいい日を選んでゆっくり歩きましょう。
- この3つを守り、友人と、家族と、さあ出発!

おねがい

- ・ゴミは捨てないで持ち帰りましょう。
- ・たばこの投げ捨てや、山火事には十分注意しましょう。
- ・案内板や休憩所はみんなのもので、大切にしましょう。
- ・美しい自然は、人間だけのものではありません。草花や虫たち、小鳥たちのためにも自然を汚さないようにしましょう。
- そして、美しい自然を後世まで伝えていきましょう。

このみちは、年金積立金元還元融資を受けてつくられました。

周辺のアクセスガイド

大石田駅までは
山形駅からJR奥羽本線で45分
山形空港から車で30分



観光のお問合せ 大石田町企画課 ☎0237-35-2111
〒999-41 大石田町緑町1番地

交通のお問合せ JR大石田駅 ☎0237-35-2022
〒999-41 大石田町大石田乙585

コースのお問合せ 大石田町企画課 ☎0237-35-2111
〒999-41 大石田町緑町1番地

山形県環境保護課 ☎0236-30-2206
〒990-70 山形市松波2-8-1

表紙の絵は「おくの細道-大石田」 名垣義助